



食物依存性運動誘発アナフィラキシー



<食物依存性運動誘発アナフィラキシーとは？>

特定の食物摂取後の運動により、全身の蕁麻疹(じんましん)、呼吸困難、血圧低下、意識障害などのアナフィラキシー症状が起こるものを、「食物依存性運動誘発アナフィラキシー(food-dependent exercise-induced anaphylaxis:FDEIA)」と呼びます。

FDEIA が起こるのは、特定の食物摂取から運動までの時間が4時間以内です。食物摂取から4時間以上経過すると運動をしてもFDEIA は起きなくなります。

原因食物の摂取量や運動量が多いから症状が出現しやすいというわけではありません。食物摂取量や運動量が少なくても、症状が出現することがあります。

発症回数は2回以上が70%以上で、頻回に発症する症例が少なくありません。



<原因食品>

原因食物は、小麦が60%、甲殻類(エビ、カニ、イカなど)が30%を占めますこのほかに、果物やナッツ類などが原因になることがあります。



<症状>

10-15mm 程度の蕁麻疹の出現に続き、喘鳴、喉頭浮腫、呼吸困難などの呼吸器症状や悪心、嘔吐などの消化器症状を呈します。血圧低下、虚脱、意識消失などアナフィラキシーショックに至る場合もあります。



<検査>

病歴の十分な聴取が診断をする上で最も重要です。原因食物に対する特異的IgEの陽性は診断の参考にはなりますが、確定診断にはなりません。原因食物の摂取と運動による誘発試験の再現性は低いのが特徴です。



<予防>

「原因食品を食べたら運動しない、運動するなら原因食品を食べない」ことを徹底されることが大切です。



<治療>

運動中に蕁麻疹などの皮膚症状が出現した場合には、運動を中止し抗ヒスタミン薬を内服し、医療機関を受診してください。抗ヒスタミン薬をいつでも服用できるように携帯してください。重篤な症状が発現した場合には、直ちに医療機関を受診しなければなりません。